

各位

会 社 名 ピープル株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役 桐渕千鶴子
 (JASDAQ・コード 7865)
 問合せ先 IR 担当 飛田留美子
 電話 03-3862-2768

営業外収益の計上及び平成 26 年 1 月期第 1 四半期業績予想値と実績との差異に関するお知らせ

平成 25 年 3 月 4 日付当社「平成 25 年 1 月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」において発表いたしました平成 26 年 1 月期第 1 四半期（平成 25 年 1 月 21 日～平成 25 年 4 月 20 日）の業績予想について、下記のとおり実績との差異が生じましたためお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 1 月期 第 1 四半期業績予想と実績の差異等 （平成 25 年 1 月 21 日～平成 25 年 4 月 20 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当四半期 純利益	1 株当たり 当四半期純利益
前回予想 (A) (平成 25 年 3 月 4 日発表)	619	△35	△35	△21	円銭 △4.80
今回修正 (実績) (B)	668	△31	17	10	2.34
増減額 (B-A)	49	4	52	31	7.14
増減率	7.9%	-	-	-	-
(ご参考) 前期第 1 四半期実績 (平成 25 年 1 月期第 1 四半期)	632	17	18	10	2.37

2. 予想との差異の理由について

当第 37 期第 1 四半期の売上高は、期初予想では年明けの消費市場の不透明さから前年同期間を 2%程下回る見通しでございましたが、6 億 68 百万円、前年同期間対比 5.9%増となりました。これは主に新製品を積極的に打ち出した玩具部門売上高が前年を維持したことや、前年同期間ではタイの洪水の影響で供給停止状態であった米国向け輸出が当期には正常化したことに加え、僅かにドル高効果も重なり総売上高を底上げしたことによります。

また、急激な円安進行や広告等の投資先行で損失を見込んでいた営業利益段階では、売上増に伴って当初予想より僅かに損失幅が縮小しました。

営業損失予想に伴って同様に損失を見込んでいた経常利益段階では、当第 37 期は当面円安トレンドが優勢とみて、急ぎ、当下半期の輸入仕入に充てるための米ドルを先物予約したことから、時価評価で 44 百万円が当四半期営業外収益に大きく反映され、結果、経常利益は 17 百万円となり、第 1 四半期純損失予想は 10 百万円の四半期純利益への修正となりました。

以上